

平成二十七年入学式式辞

新入生の皆さん、春の花の咲き乱れるこの国際園芸アカデミーへのご入学おめでとうございます。本日、このように多くの皆さまとともに、入学式を挙行できますことを誠に喜ばしく思います。ご参列の新入生のご家族の皆さまにも、心よりお祝いを申し上げます。

また、この度はご多忙にもかかわらず、岐阜県議会議員の先生方をはじめ、可児市長様ほか、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。皆様方には平素から本校の教育に多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、この場をお借りまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、国際園芸アカデミーは開校十二年目を迎え、昨年開催しましたキックオフ大会では、新たなスタートに向かって、「職業園芸人として第一線で活躍できる人材の育成、業界との連携強化、地域と連携した岐阜県の花振興を進める」というキックオフ宣言を行いました。これまでの十一年間で二二四名の卒業生を世の中に輩出し、それぞれが生産法人、園芸卸・小売業、造園・施工管理業などの各分野にて活躍しております。

国内外に目を向けますと、テロによる脅威、異常気象による災害、少子高齢化に伴う経済活動の減速や社会保障問題など、難問が山積し、これからの皆さん若い世代がかかえる課題は益々大きくなるばかりです。

このような時代で生きてゆくためには、よりたくましく困難に立ち向かえる人間でなければなりません。そのために、一人の人格を持ったヒトを育てることを基本として、そのうえに知識と技術をそなえた人材を育てて行きたいと考えております。

一方で、昨年、国では花き振興法が制定され、それを受けて岐阜県では全国に先駆けて、花の振興に関する条例が制定、施行されました。そこでは「花の振興に関する施策を推進することにより、県民の健康で心豊かな生活を確保するとともに美しい郷土づくりに寄与する」ことを目的とすると謳っています。花業界にとって追い風となるような動きが起こってきているということです。まさにこの目的を担う有能な人材の養成が当校に課せられた使命そのもので、皆さんへの期待にも大きなものがあります。

本校での学びの特徴は、その目標達成のため、分化した狭い専門分野だけで

なく、植物を育てる生産分野、植物を飾る装飾分野、植物を植える造園緑化分野の3分野を広く学んだうえでそれぞれの分野を深く極めることにあります。

このような学びを通し、時代が求める豊かな感性と柔軟な発想をもつ、専門の枠だけにとどまらない応用力のある人材の育成を目指してきました。

皆さんは、このような学びを通し、花と緑のもつ役割を体得し、それを社会にしっかりと伝えられるようになっていただきたいと思っています。さらには目標を同じくする先輩や仲間と交流し、様々な分野の先生方と議論し、自分を磨いてください。

ここで、これからこのキャンパスで学ぶにあたり、先人の残されたある言葉を紹介したいと思います。

それは、「志のあるところに道は拓かれ、求めるところに師は現れる。」という言葉です。世界の三大スポーツシューズメーカーの一つであるアシックスの創業者、鬼塚喜八郎氏によるものです。皆さんは、将来このような仕事に就きたい、その仕事で成功したいという夢や目標をもって当校に入学されて来られたはずだと思います。その志をもったことから、すべては始まっているのです。志がなければ、毎日をただ何となく生き長らえているだけで、自分の道もあつたものではありません。もし、志をもっていないなら、それでいいのか、人の決めたことに従い、もてあそばされる人生でいいのか胸に手を当てて考えてみてください。せっかくいたいただいた命です。自分をこう生かしたい、自分はこうすべきだという志があるはずです。この志がしっかりと立っていれば、その実現のために必要な師や仲間が現れてくるものです。

まず、自分のやりたいこと、やるべきことを決め、志をしっかりと立て、今を大切に時間を無駄にせず勉学に励んでください。これからの学びは押し付けられるものではなく、自分で選び自分で行動しながら、自らが人生をデザインしてゆくものです。その学びを私たち教職員が一丸となりサポートして行きますので、学生の皆さんは悔いのない充実した学生生活を過ごしてください。また、保護者の皆様には安心して私たちにお任せください。今日、ご臨席いただきましたご来賓の皆様におかれましてもこれまでにもましてご支援、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

最後に、新入生の皆さん一人ひとりが心身ともに健康で、新たな友人と出会い、語らい、有意義な学生生活を全うされること切に願ひ、私の式辞といたし

ます。

平成二十七年四月七日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 上田善弘